

「赤鼻のセンセイ」招く

NPO「子どもホスピス」が会合

寄り添う方法を学ぶ

九大病院

NPO法人「福岡子どもホスピスプロジェクト」(博多区)は13日、九州大病院(東区)でドラマ「赤鼻のセンセイ」のモデルになった昭和大学院内学級教師の副島賢和さん(49)によるワークショップを開催した。

同プロジェクトは難病の子どもがいる家族を支えるため、子どもを一時預かりできる「子どもホスピス」の設立を目指し、定期的に



赤鼻をつけ、子供への寄り添い方を説明する副島さん(左)

勉強会も開いている。

13日は県内から30人以上の家族が参加。副島さんは子どもの感情を大切にし、遊びを通じて寄り添う方法を参加者に体験してもらいながら説明した。脊髄小脳変性症の弟(14)が

いる北九州市の高校2年、栞野みのりさん(16)は「支援学校の先生になりたい。言葉は通じないが、笑い合うことが大切と感じ、とても勉強になった」と話した。

【関東晋慈】